

研究結果報告書

台湾進出日系企業における異文化コミュニケーションの研究

所属：高雄餐旅大学 応用日本語学科

役職：准教授

氏名：呉 岳樺

本研究は台湾進出日系企業で働く日本人管理職 59 名の異文化コミュニケーション問題の調査結果から、以下の点が明確になった。

(1) 日本人管理職の回答結果から、「困難度」より「文化の違い」を感じていた割合が高い項目は 71% (21 項目中 15 項目) であった。

(2) 日本人管理職用質問 21 項目のうち、5 割以上の者が「文化の違いを感じる」と回答していたのは 7 項目であった。一方、「困難を感じる」と回答した者の割合が 5 割以上の項目も 7 項目であった。その項目中 6 項目が文化の違いを感じていた項目と同じであった。それらの項目は「台湾人従業員とのコミュニケーション」「会議での議論・話し方」「時間の守り方」「仕事の進捗状況の報告」「仕事上の問題点を追及する姿勢」「仕事範囲・責任範囲のとらえ方」である。

(3) 日本人管理職が台湾人従業員の行動に「困難を感じない」と回答した者の割合が 5 割以上の項目は 11 項目もあった。その中、「台湾人従業員の日本人管理職に対する言葉遣い」「残業することについての台湾人従業員の対応の仕方」「台湾人の男性・女性従業員の扱い方」などの項目はより顕著である。日本人管理職の中に、それらの項目についての台湾の文化スキーマが徐々に獲得できている者が多くなることを意味するといえよう。

(4) 全体的に日本人管理職の間で、「自分たちが学ぶべき」と回答した者の割合は高くなかった。ほとんどの項目 (21 項目中 15 項目) は 1 割以下にとどまっている。上位 3 項目もわずか 10%~30% であった。これは台湾人従業員の行動が「良いものだ」という認識はまだできていないといえる。この結果については、台湾と日本の文化スキーマの違いが大きく影響していると考えられる。日本人管理職の新しいスキーマの獲得が異文化コミュニケーションにとって、大きな課題の一つであるといえる。

(5) 「人間関係行動」「業務遂行行動」「経営管理行動」には、性別の違いによる文化の違いと困難度の差はなかった。一方、「人間関係行動」「業務遂行行動」には、年代別・勤務年数などの違いによって、文化の違いの差異は存在していなかったのに対して、困難度による差異が存在していた。

以上

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

吳岳樺 (2021)

テーマ:

「台湾日系企業の異文化コミュニケーションに関する研究—日本人管理職を対象に—」(投稿審査中)

論文掲載誌: 『台湾応用日語研究』

掲載時期: 2021年6月

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)

なし